



平成24年12月20日

南海トラフ巨大地震を想定した 津波避難行動・意識調査

＜概要＞ 岡山大学大学院環境生命科学研究科の氏原岳人助教（都市・地域計画学）らの研究グループは、平成24年11月下旬から12月初旬にかけて岡山市沿岸部の地域住民を対象に南海トラフ巨大地震を想定した津波避難行動・意識調査を実施した。直接配布・郵送回収の方式で実施し、配布数1000部、回収数412部（平成24年12月4日現在）になる。本調査では、地域住民の津波防災に関する意識や、南海トラフ巨大地震を想定した避難行動（避難タイミング、移動手手段、避難ルート等々）などを調査している。沿岸部住民の津波防災意識を統計学的に検証するとともに、津波避難時の交通行動の推計や避難道路のネットワーク解析などの結果に基づき、“人的被害「ゼロ」実現に向けた津波避難計画”を独自に今後検討する。当日は、調査結果の速報値についても紹介する予定である。

【研究の背景・目的】

東日本大震災では、地域住民による津波防災に関する知識の伝承の重要性がとりあげられました。しかし、岡山県はこれまで大きな津波に襲われた経験がなく、津波防災に関する知識の蓄積が全くありません。また、南海トラフ巨大地震を想定した場合、津波到着まで3時間以上かかると言われていますが、この津波到来までの長い時間が地域住民に誤解や過信を生んでいる可能性が高いと考えています。例えば、「津波が来るまで3時間以上あるから十分に逃げられる。その間に家財一式を車に詰め込み逃げればよい」という安易な声を耳にすることもありました。



その一方で、津波到来まで10分前後のような津波常襲地域では“減災（被害を最小限にする）”の視点が重要になりますが、岡山のような地域では、事前の津波避難計画や、それに基づいた事前準備がしっかりしてさえいれば、人的被害を「ゼロ」にすることも可能です。

私たちの研究グループでは、“人的被害「ゼロ」実現に向けた津波避難計画”を検討するための科学的根拠を得るために、南海トラフ巨大地震を想定した津波避難行動・意識調査を岡山市沿岸部において実施しました。



PRESS RELEASE

【調査方法】

日時：平成24年11月21日（配布）～平成24年12月2日（締め切り）

対象者：岡山市南区在住の世帯主

配布方法：直接配布・郵送回収

回収数：配布数1000部のうち、412部を回収（平成24年12月4日現在）

【調査内容】

地域住民の津波防災に関する意識や、南海トラフ巨大地震を想定した避難行動（避難タイミング、移動手段、避難ルート等々）

【調査結果（速報値）】

当日、速報値を紹介します。

本研究は、岡山大学地域総合研究センターの地域連携プロジェクト（学都研究）の一環として実施しております。

<お問い合わせ先>

岡山大学大学院環境生命科学研究科
廃棄物マネジメント研究センター助教
氏原 岳人

086-251-8850(Tel&Fax)

ujihara@cc.okayama-u.ac.jp